

1 酒田市の今後10年の教育の姿

- ・ 自尊感情・自己有用感を育む教育の推進
- ・ 生徒指導の充実
- ・ 学力向上対策の推進
- ・ 小中一貫教育の推進
- ・ 情報活用能力の育成とICT環境の整備
- ・ 外国語教育の推進
- ・ 理科教育・「ものづくり」の推進
- ・ 特別支援教育支援体制の充実
- ・ 教職員研修の充実
- ・ 生涯学習の推進



【第2期酒田市教育振興基本計画
第3章 今後10年間を通じて目指す教育の姿より】

2 教職員研修の充実

◆これまでの研修の機会として
○市教育委員会が主催する学習指導、教育相談等の研修を通して教員の資質・能力の向上を図ってきた。

Ex. 教育相談研修講座、単元研修委嘱、指導力向上研修

○各小・中学校において授業研究会、校内研修会の内容を工夫・改善することで教員の資質・能力向上を図ってきた。

◆今後の方向性と取り組み

今後の社会の大きな変化
複雑で多様化する今日的課題

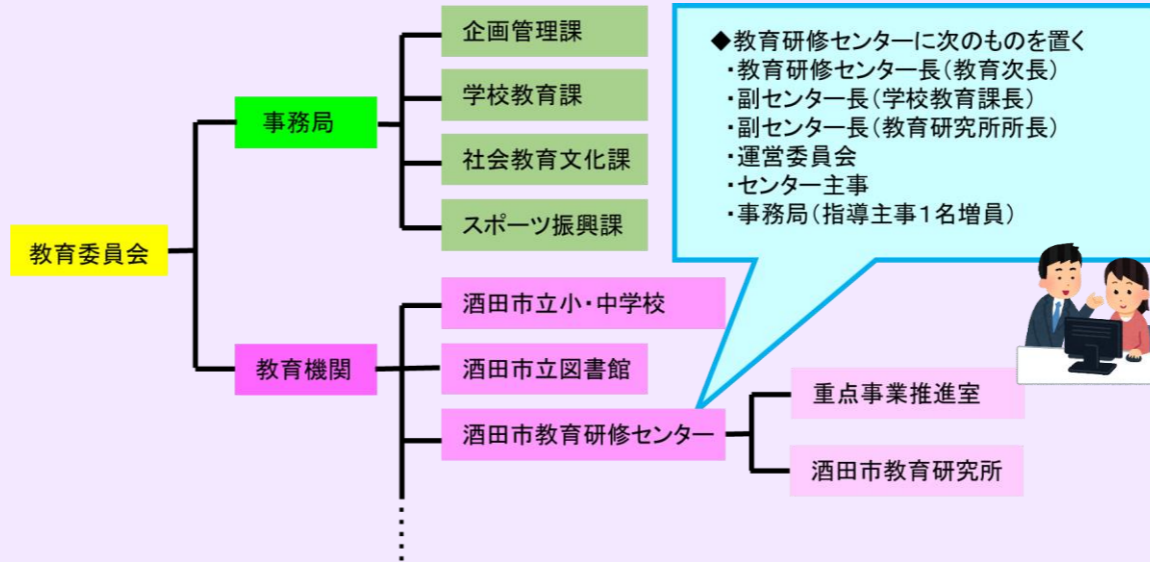


研修内容を精査し工夫、改善
さらなる教員の資質・能力の向上

【第2期酒田市教育振興基本計画
第4章 取り組むべき施策 基本施策より】

3 酒田市教育研修センター(仮称)を設置し、研修を充実させる

(1) 研修の機構を整える



◆研修の機構を整えることで、次のようなことが可能となる。

- ・ タブレット型端末等 ICT 機器の操作方法、機器を活用した授業づくりの最新の研修が、いつでも可能となる。
- ・ 英語教育コーディネーターと授業づくりの研修や相談をするとともに、機器を使った英語学習についても研修することができる。
- ・ 常駐の指導主事を置くことで、情報教育推進室(仮称:現205会議室)の管理がしやすくなり、研修や相談が常にできる状態になり、教員のニーズに応えることができる。

(2) 研修の体系を整える

酒田市教育研修センター(仮称)



重点事業推進室の研修							教育研究所の研修
社会教育 ・社会教育文化課、スポーツ振興課の指導員研修等を位置づけていく。 ・図書館ミライニを中心に読書教育を推進する。	理科・ものづくり ・理科センター研修会、理科研究発表等を位置づけ、理科教育を推進する。	学力向上対策 ・算数・数学 ・英語 ・単元研究委嘱、授業力向上研修の推進をする。 ・年次重点教科の研修を位置づけ、学力向上を図る。	小中一貫教育 学力向上 生徒指導	情報教育推進 ・GIGAスクールの取組みを計画し推進する。 ・情報教育推進のための環境を整え、研修の機会を充実させる。	特別支援教育 ・特別支援研修会、教育支援員研修会等を行い、教職員の資質向上を図る。	教育相談 ・教育相談研修講座等を行い、教職員の資質向上を図る。 ・他機関と連携し、課題の解決を図る。	・各教科・領域の部会に全教員が所属し、研修、部会の運営等にあたる。

- ・ 例えば、理科教育の研修内容を情報教育推進と関連付けることで、ICT機器を活用したわかりやすい提示の仕方や活動の仕方について研修することができるようになる。これまで授業研究会を中心とした研修のあり方を、大きく変えていくことにつながる。
- ・ 学校研究に係る研修内容や事例・情報についてセンターに集約することで、学力向上、小中一貫教育など、市の重点施策に係る情報をいつでも参考にすることができる。それぞれの研修に参加できない場合でも、データベースを参照することで、いつでもだれでも研修をすることができるようになる。
- ・ 酒田市教育研究所と連携することで、行政主体の研修と研究所の研修が一本化できる。研修内容の精査と工夫、改善につなげることができる。今後予定されている東北大会(R5生活・総合、R5特別活動、R6メディア教育)について、市全体として重点として取り組み成果を上げることができる。